

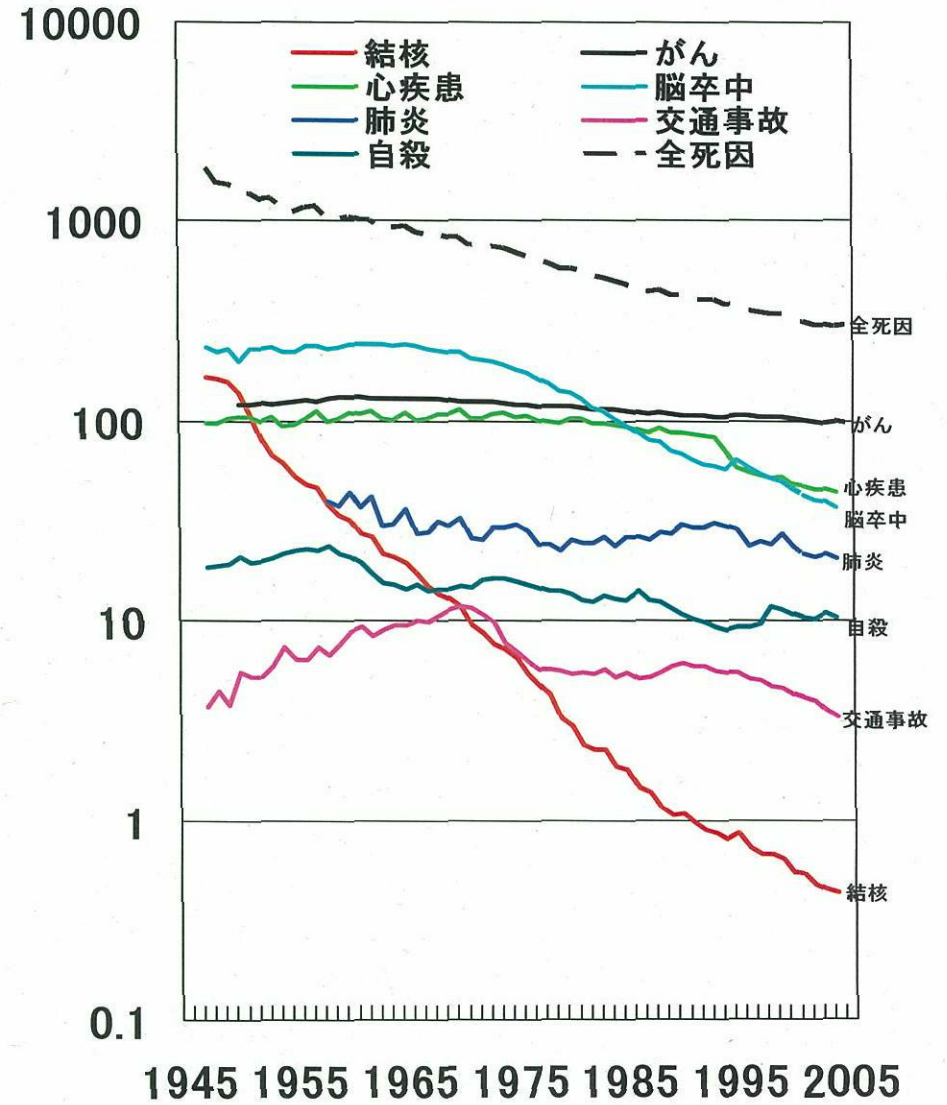
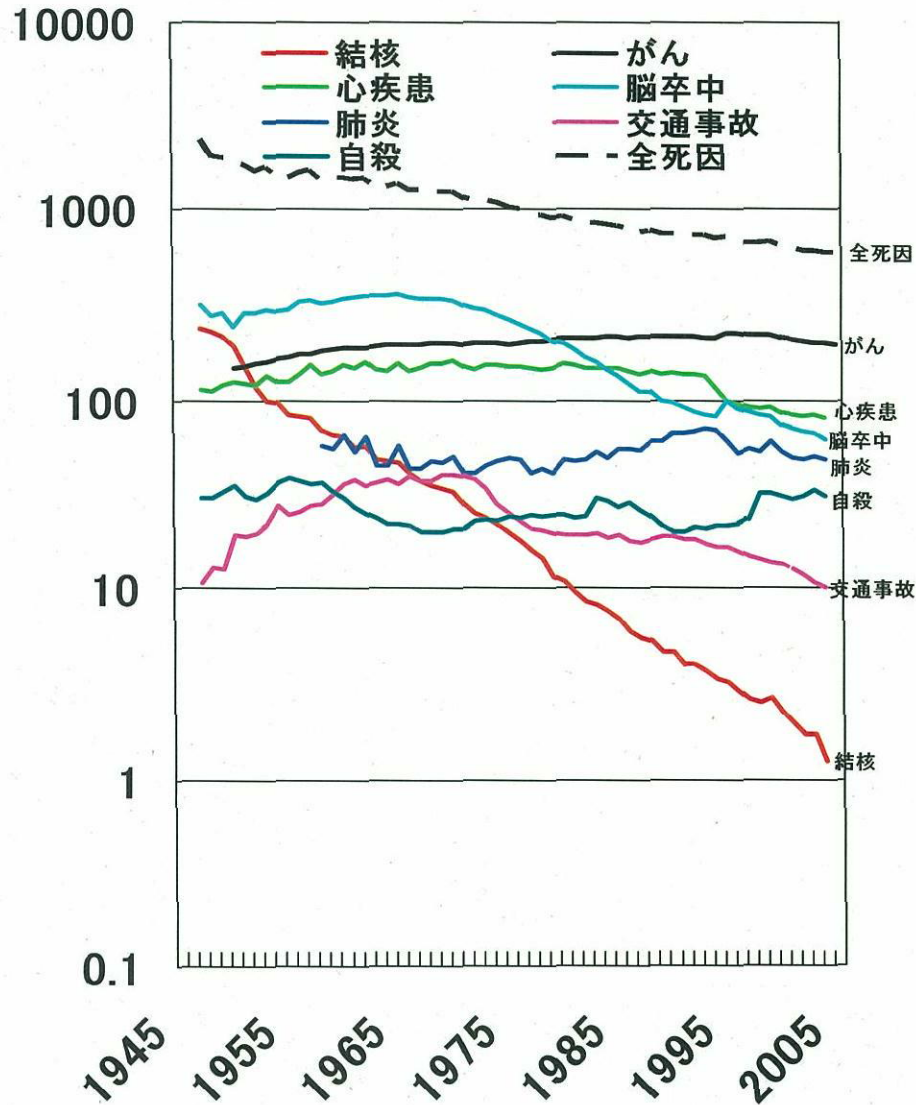
がんに関する統計

項目	現 状	備考（出典）
死亡数	<p>総数 32 万 5,941 人（全死因に対し 30.1%）</p> <p>[男性 19 万 6,603 人（全死因に対し 33.6%）] [女性 12 万 9,338 人（全死因に対し 25.9%）]</p> <p>→ “<u>日本人の 3 人に 1 人ががんで死亡</u>”</p> <p>◎がんは加齢により発症リスク増 → 粗死亡数は増加傾向（高齢化の影響） → 但し、年齢調整率で比較するとほぼ横ばい</p> <p>◎がんの内容（種類）が変化している</p>	人口動態調査 (2005 年)
罹患数	<p>53 万人（男性 30.5 万人、女性 22.5 万人）</p> <p>男性で多い部位：胃、大腸、肺、肝臓、前立腺 女性で多い部位：大腸、乳房、胃、子宮、肺</p>	推計値（がん助成金 研究班、1999 年） ※男女ともに、左記 5 部位で 6 割超
生涯リスク	<p>男性 46.3%、女性 34.8%</p> <p>→ “<u>日本人男性の 2 人に 1 人、女性の 3 人に 1 人ががんになる</u>”</p>	推計値（厚生労働科 学研究 2004 年）
受療・患者	<p>継続的な医療を受けている者は 128 万人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調査日に入院中の者は 13 万 9,400 人 ・ 外来受診は 11 万 9,700 人 ・ 1 日に 25 万 9,100 人が受療した（全受療の 3.3%） ・ 平均診療間隔は 11.9 日 	患者調査 (2002 年)
がん医療費	2 兆 3,306 億円（全体の 9.6%）	国民医療費 (2004 年)

日本における死亡の推移

男性

女性



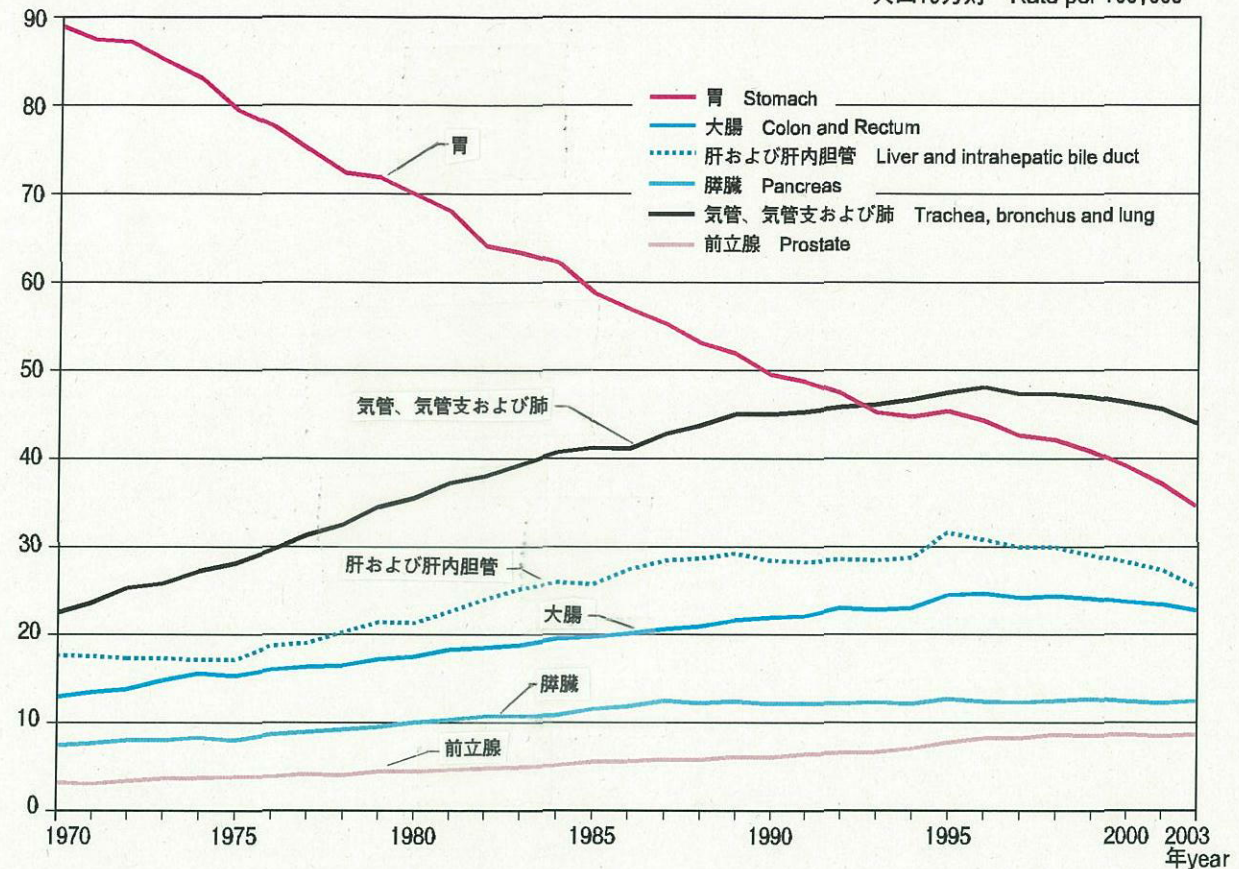
人口動態統計・年次推移分類による。率は昭和60年モデル人口による年齢調整率(10万人あたり)。

がんの主要部位別・年次別・性別・年齢調整死亡率 (昭和45年～平成15年)

Age-adjusted death rates of malignant neoplasms by site, sex and calendar year (1970 ~ 2003)

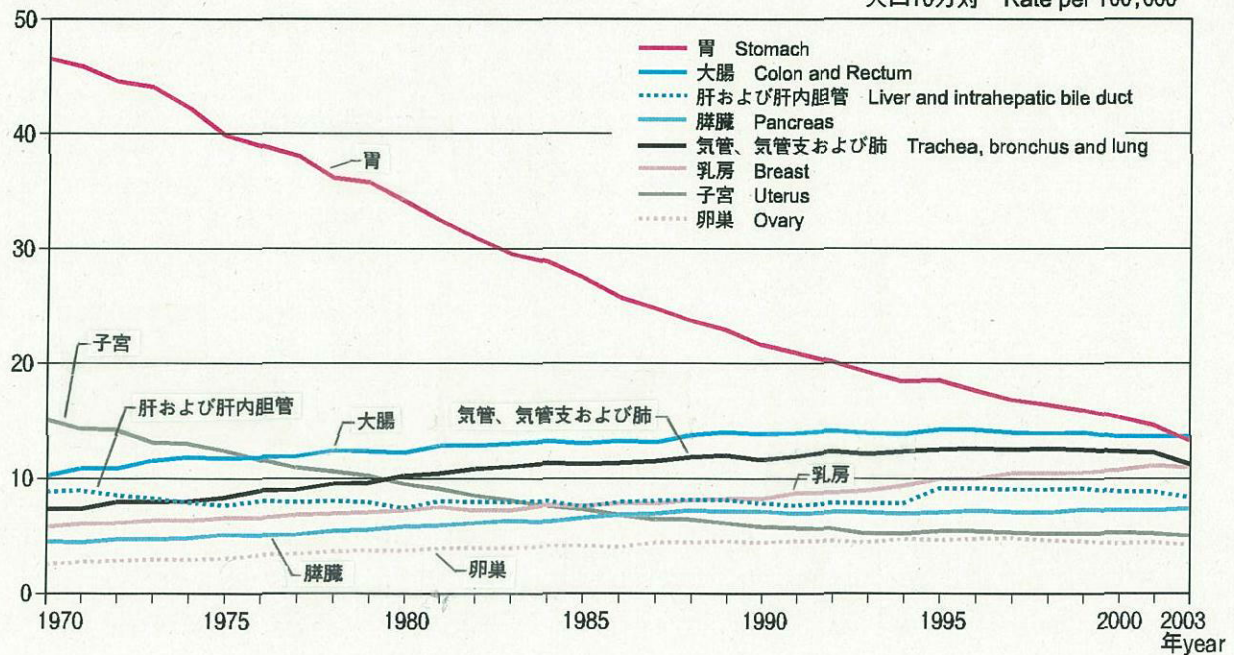
男 (Males)

人口10万対 Rate per 100,000



女 (Females)

人口10万対 Rate per 100,000



資料：厚生労働省大臣官房統計情報部「人口動態統計」

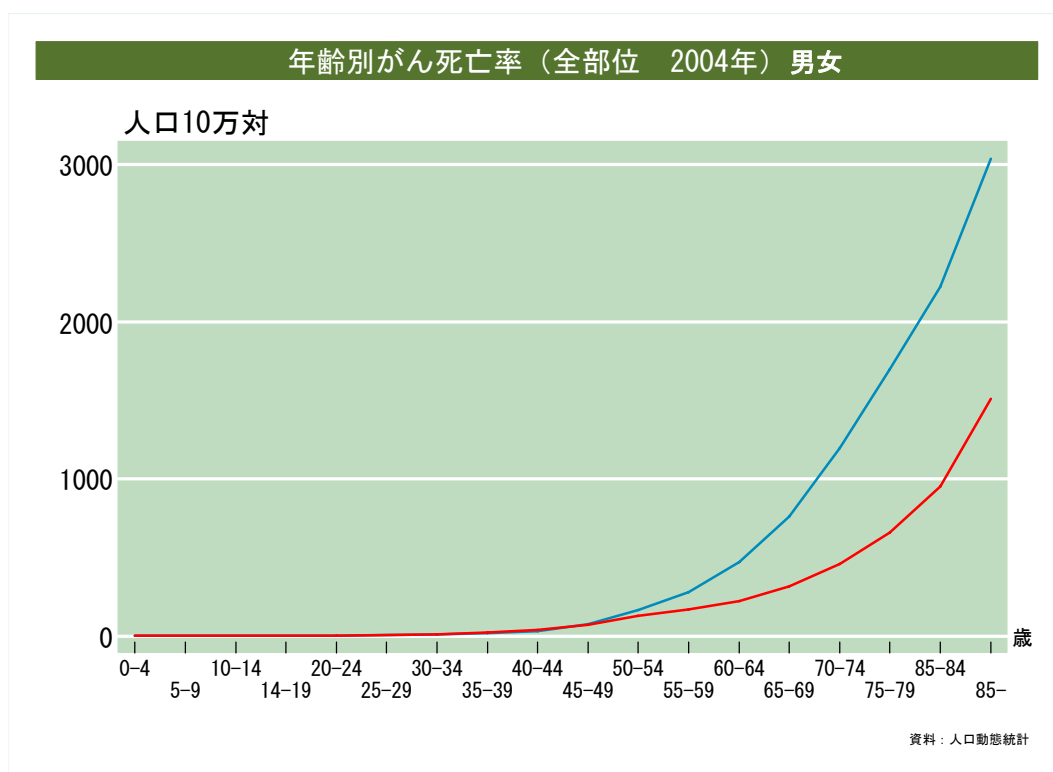
Source: Vital Statistics of Japan, Statistics and Information Dept., Minister's Secretariat, Ministry of Health, Labour and Welfare

がん死亡率(1年間に人口10万人当たり何人死亡するか)

～年齢による変化

◆全がん

- ・ 男女とも、おおよそ 60 歳代から増加し、高齢になるほど高い。
- ・ 60 歳代以降は男性が女性より顕著に高い。



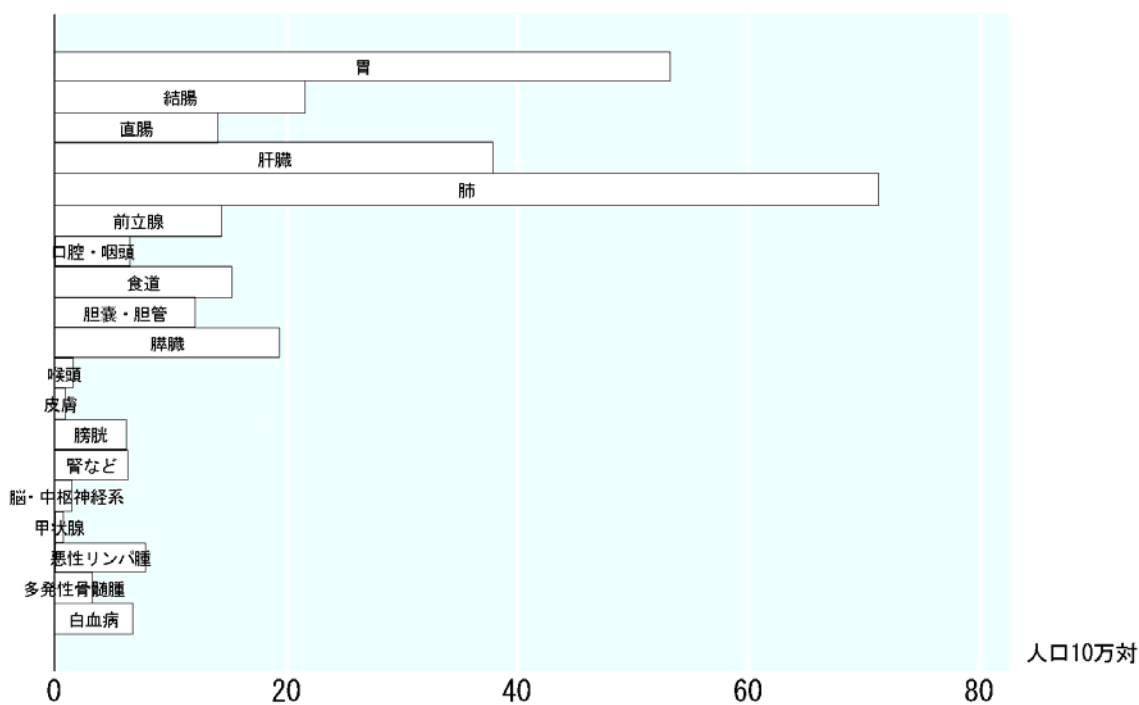
◆詳細部位別では

- ・ 胃がん、結腸がん、直腸がん、肺がん・・・男女ともおおよそ 60 歳代から増加し、高齢になるほど高い。
- ・ 胃がん、結腸がん、直腸がん、肝臓がん、肺がん・・・どの年齢階級でも男性が女性より高い。
- ・ 乳がん・・・30 歳代から死亡率が増加する。
- ・ 乳がん（女性）、卵巣がん・・・死亡率は 50 歳代にひとつのピークがある。
- ・ 子宮頸がん・・・30 歳代から死亡率が増加する。
- ・ 子宮体がん・・・50 歳代から死亡率が増加する。

※ 国立がんセンターがん対策情報センターHPより転載

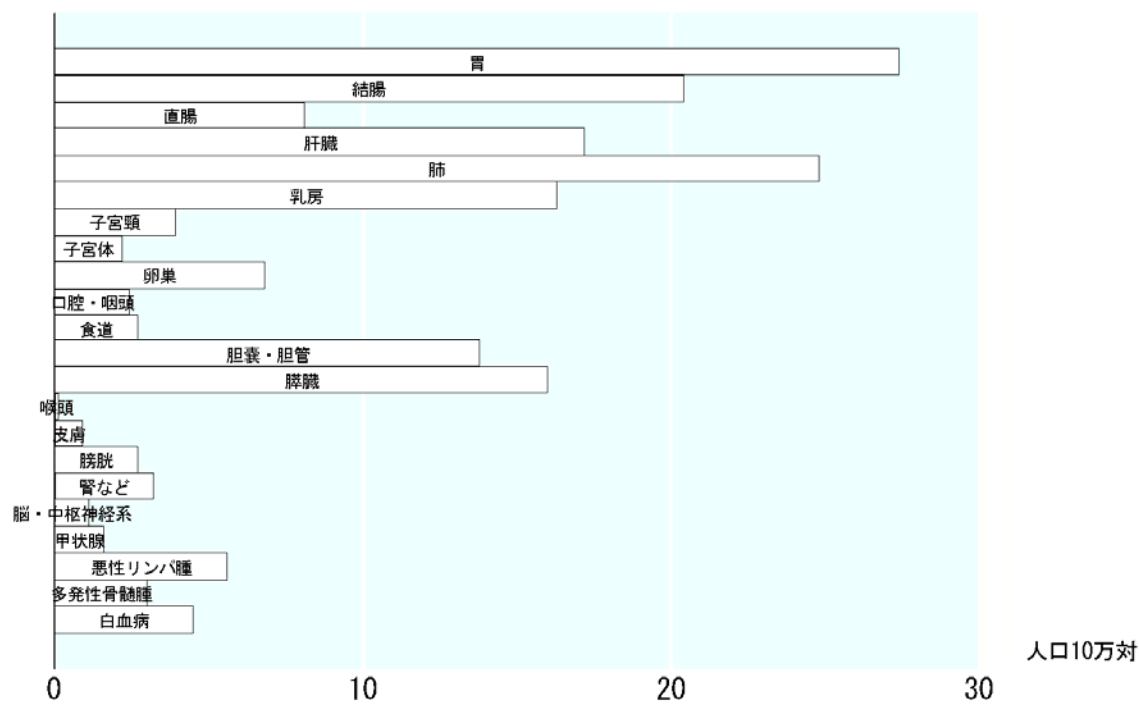
部位別のがん死亡率

部位別がん死亡率 (2004年)男性



資料：人口動態統計

部位別がん死亡率 (2004年)女性



資料：人口動態統計

※ 国立がんセンターがん対策情報センターHPより転載

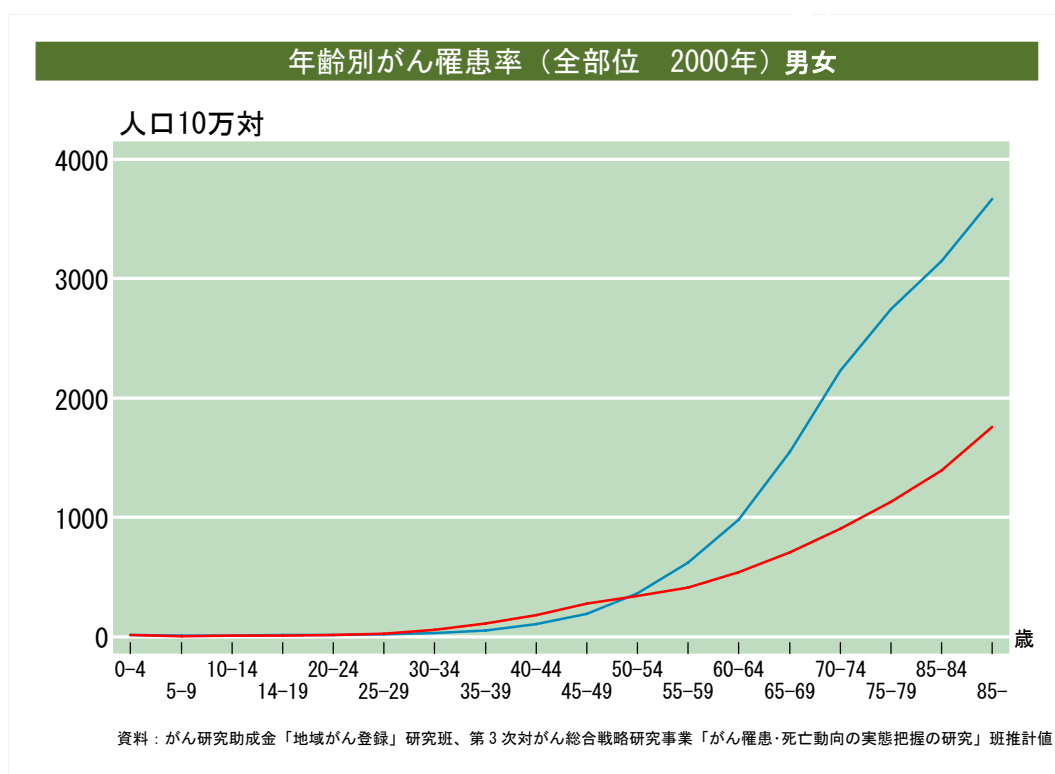
がん罹患率（1年間に人口10万人当り何例がんと診断されるか）

（注） がんの罹患の状況は、がん登録によらなければ把握ができない。そのため、現在、がん罹患率は、11府県市の地域がん登録のデータをもとに全国値を推計している。（資料3-9参照）

～年齢による変化

◆全がん

- ・ 男女とも50歳代ごろから増加し、高齢になるほど高い。
- ・ 30歳代後半～40歳代で女性が男性よりやや高く、60歳代以降は男性が女性より顕著に高い。

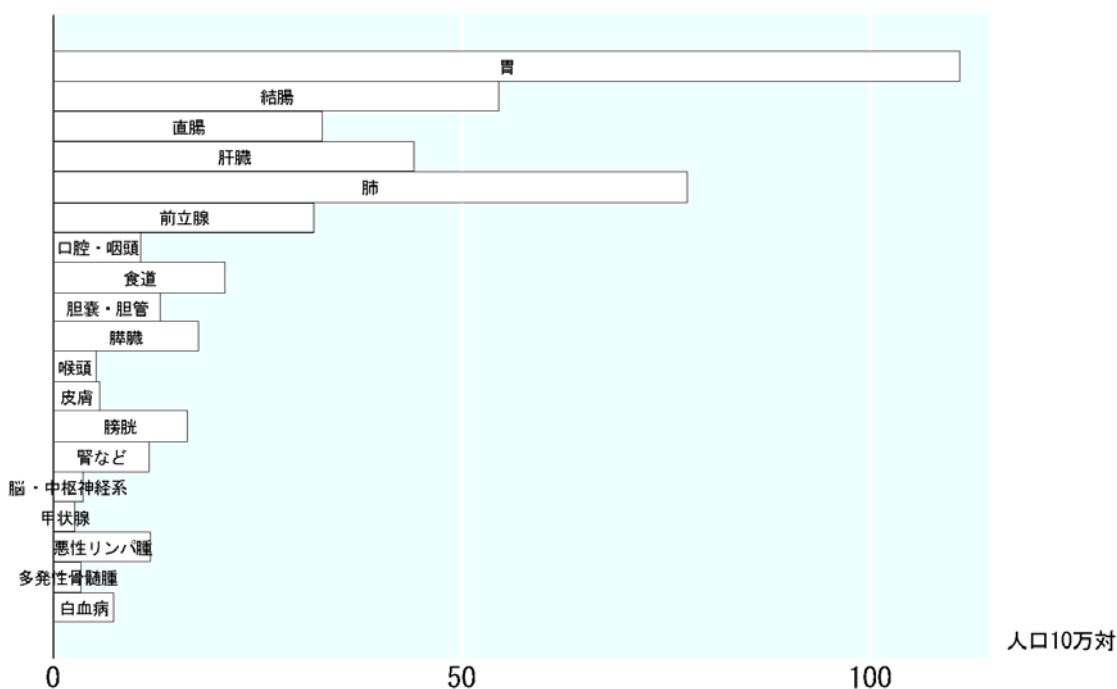


◆部位別では

- ・ 胃がん、結腸がん、直腸がん、肺がん・・・男女とも50歳代ごろから増加し、高齢になるほど高い。
- ・ 胃がん、結腸がん、直腸がん、肝臓がん、肺がん・・・どの年齢階級でも男性が女性より高い。
- ・ 前立腺がん・・・50歳代までは低く、60歳代後半から増加する。
- ・ 乳がん（女性）・・・30歳代に罹患率が増加し、40歳代後半にピークがある。
- ・ 子宮頸がん・・・30歳代に罹患率が増加する。
- ・ 子宮体がん・・・40歳代後半に罹患率が増加する。

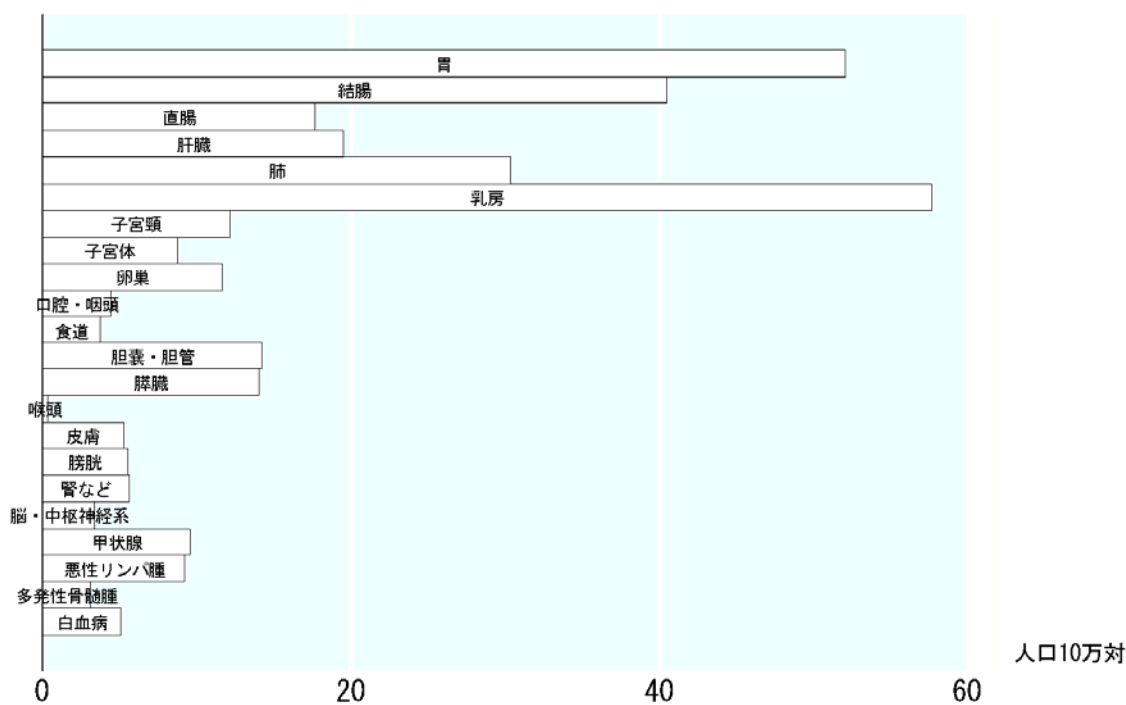
部位別のがん罹患率

部位別がん罹患率 (2000年) 男性



資料：がん研究助成金「地域がん登録」研究班、第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班推計値

部位別がん罹患率 (2000年) 女性



資料：がん研究助成金「地域がん登録」研究班、第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握の研究」班推計値

※ 国立がんセンターがん対策情報センターHPより転載

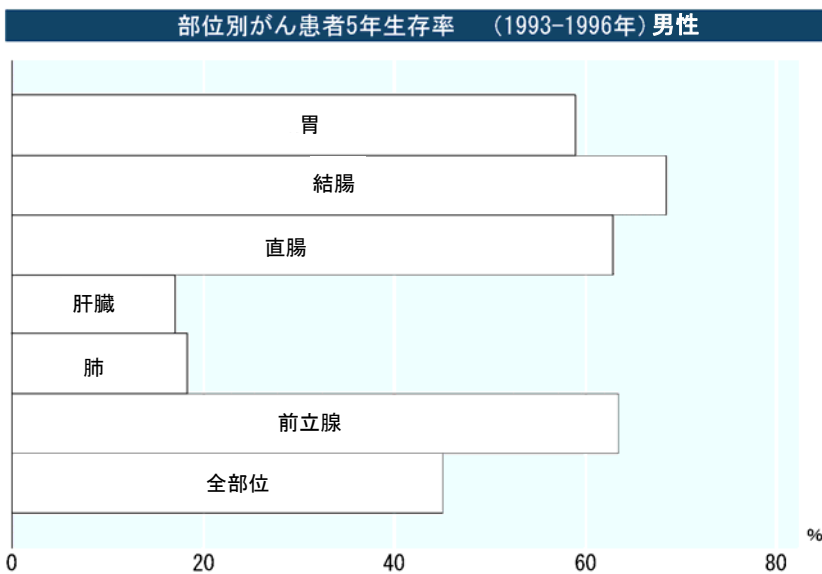
5年相対生存率

あるがんと診断された人のうち5年後に生存している人の割合が、日本人全体*で5年後に生存している人の割合に比べてどのくらい低いかで表します。100%に近いほど治療で生命を救えるがん、0%に近いほど治療で生命を救い難いがんであることを意味します。

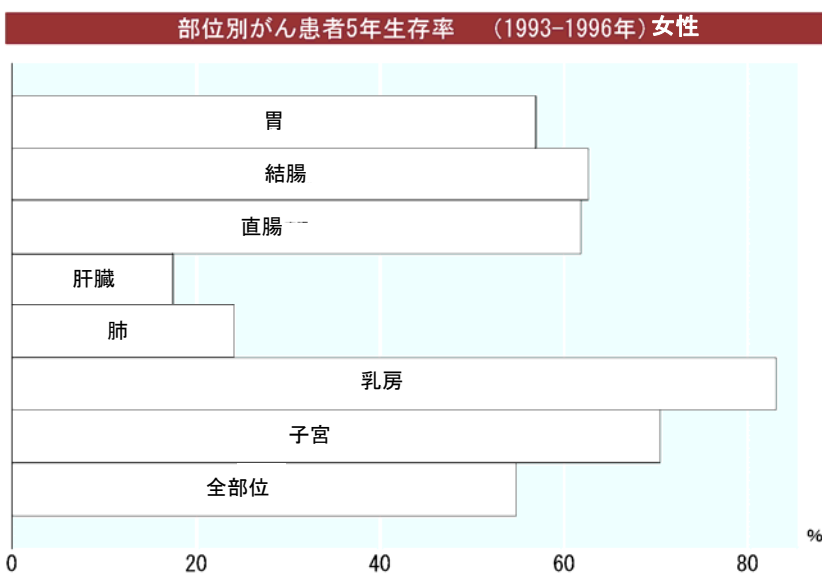
*正確には、性別、生まれた年、および年齢の分布を同じくする日本人集団。

(注) がん患者の生存状況は、がん登録によらなければ把握ができない。そのため、現在、5年相対生存率は、7府県の地域がん登録のデータをもとに全国値を推計している。(資料3-9参照)

- ・ 1993年～1996年にがんと診断された人の5年相対生存率は男性 45.1%、女性 54.8%。
- ・ 部位別では、女性の乳房と子宮が70%以上で高く、胃、大腸、直腸、結腸が約60%～70%、肝臓と肺は20%前後で低い。



資料：がん研究助成金「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」班推計値



資料：がん研究助成金「地域がん登録精度向上と活用に関する研究」班推計値

※ 国立がんセンターがん対策情報センターHPより転載